

# 鶴岡ロータリークラブ会報

## 859

1976-6-8 No.50

鶴岡ロータリークラブ 創立 昭34.6.9 承認 昭34.6.27 353地区  
例会場 鶴岡市馬場町 物産館 3階ホール  
例会日 毎週火曜日 午後 12.30～1.30  
事務局 鶴岡市馬場町 鶴岡商工会議所内 電 0235 (22) 5775  
会長 佐藤 忠 幹事 吉野 勲

### ◆ 点 鐘

◆ ローターソング (それでこそロータリー)

◆ ビジターゲスト紹介

◆ 新会員 諸橋政横君 諸橋医院々長 (所属 会員増強) 紹介者 張 紹淵君

### ◆ 会長報告

◆ 5月28日 (金) 於 善宝寺、鶴岡西RC10周年記念式典  
親クラブとして鶴岡RC会長外20名参列、12:30分点鐘 13:50分まで式典  
14:10～15:40分祝宴 盛会でした。(会長祝辞後述)

◆ 前例会後理事会を開催し、1977年規定審議会議員の指名について、地区ガバナーより文書があったので審議の結果、次の方を御指名申し上げました。  
(地区諮問委員会原案通り)

正 議 員 パストガバナー 早坂源四郎君

補 欠 議 員 ガバナー 高坂知甫君

◆ 本日 2時30分より本年度最終(第6回)クラブ協議会を新旧委員長合同で開催いたします

◆ 療養生活でお休み中の高橋正太郎君が丸一年ぶりで出席、お元気になられお目でとうございませう。

◆ 荘内病院入院中の上林一郎君が、仙台東北大学病院に移られました。早期全快を心からお祈りいたします。

### ◆ 幹事報告

◆ 例会時間・場所変更

◎鶴岡西RC 6月11日(金) 午後6時 ホテル ニューユノハマ 潮騒

◎山形西RC 6月14日(月) 午後6時 山形ランドホテル2F

◎本荘RC 6月11日(金) 午後2時 村岡旅館

◆ 大曲南RC創立10周年記念式典

◎日時 51.8.28日(土) ◎場所 大曲仙北国民体育館 ◎登録料 ¥8,000

◆ 会報到着 新発田RC、温海RC、酒田東RC、藤沢RC

◆ RI ニュース、ロータリー会長・幹事への情報到着

◆ RC米山記念奨学会51年度米山奨学生一覧表到着

### ◆ ゲストスピーチ

山形大学農学部教授 渡部俊三先生 (後述)

京都大学人文学研究所員 ウィリアム・ケーリー先生 (後述)

### ◆ 出席報告

### ◆ 点 鐘

TO DIGNIFY THE HUMAN BEING

人間に威信を!

## 祝 詞

本日は創立10周年誠にとおめでとうございます。スポンサークラブとして、鶴岡ロータリークラブ会員一同を代表し、心からお祝い申し上げる次第でございます。

10年前の昭和41年2月22日鶴岡クラブ例会に於て小花特別代表より西クラブ設立についてのお話があり、ここに西クラブ設立の準備が進められたのでございます。そして同年5月28日当時例会場となった「みその」に於て21名のチャーターメンバーにより創立されたことを記憶致しております。

翌月の7日には、栗本初代会長が私共の例会に見えられ、設立についてのご挨拶があったのでございますが、今は他界の身となりこの盛大な記念式典に姿の見えないことは誠に残念に思います。皆さんと共にあらためて同君のご冥福をお祈り致したいと存じます。

認証状伝達式は、確か農協会館大ホールで厳粛且盛大に挙行され、この善宝寺で祝宴があったように記憶しております。

親クラブとしてお贈り申し上げたこの鐘も歴代会長によって1000回余鳴らされ、又ロータリー旗や国旗にもその歴史がしみこんでおるものと存じます。この10年の間、鶴岡西高インターアクトクラブの結成や交換学生の受入を始め、財団寄付額1,100%という会員各位の若さと優れた行動力による数々の奉仕活動に対しましては、全く敬服致すものでございます。

この10周年を節目と致しまして、更に稔りあるものにするため、情熱と思いやりを以て現在の社会及び人間関係をより良くし、RI会長の示された「人間に威信を」持つべく親クラブ共々努力して戴くようお願い申し上げ、貴クラブのご発展と会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

昭和51年5月28日

鶴岡ロータリークラブ会長 佐藤 忠

## ＝ アメリカに旅して ＝

山形大学農学部教授 渡部 俊三

私は庄内の生れであります。一昨年、突然でしたがアメリカの西部へ参りました。一年余りの滞在でこの程無事帰国した次第であります。例え話に、象の鼻をなでて、象の全部を知ったかぶりをするということがありますが、私の場合は、象の鼻毛をなでて、象のすべてをお話するような事になるかも知れません。その点ご容赦下さい。本日は丁度アメリカ東部の人ですが、ウィリアム・ケリーさんがご一緒出来ましたので、私の話の不足の部分を補って頂こうと思います。

私は文部省の在外研究員と云う制度により渡米したものです。在外研究員と申しますのは、皆様方からの税金で勉強させて頂くような仕組のもので、故にその結果は当然の義務として、

納税者であられる皆様に、ご報告せねばと参上した次第であります。

アメリカでの研究の目的ですが、私の専門は果物を作ることです。日本の果物、庄内の果物と、カリフォルニアの果物とは大変に違ったものがあります。研究の方は大差ありません。お手許に配布の地図、これはカリフォルニア大学のもので、ご覧の様にサクラメント寄りの所にデビス (Davis) と云う所、此処にカリフォルニア大学農学部のカンパスがあります。そのカンパスに、私と同じような仕事研究をしている人と一緒に勉強させていただいた次第です。勉強の話よりアメリカの大自然に接したお話の方が、より興味があるかと思しますので話題をその方へ移させていただきます。

今迄鶴岡から外に出たことのない私が、一足飛びにアメリカ大陸の西部へ、それはまるで、魔法にでもかけられた様な気持でした。丁度1月中旬の渡米でしたが、現地へ参りますと、日本の3月中旬頃の気候でした。出発前に聞いて居りました現地の気候のことですが、雨の少ない乾燥地とのことでしたが、何んと着いてから嘘のように雨の連日でした。3月一杯位降ったでしょうか。次は5月頃から11月頃まで、これが又、全く雨のない西部特有の気候となりました。その間に一日だけ、8月の上旬に雨が有りまして、降るべき時でない雨ですからこれは大変な騒ぎとなりました。と申しますのは、乾燥地の条件の下に育った果物です。時ならぬ雨のために、実割れして売物にならぬものが30%位も出てしまい、これは主として、日本向けの桃酢桃、葡萄の類です。

一年の中半年余りの乾燥期ですから、カリフォルニア地方の天気予報は気温、湿度が同時に発表されます。湿度が40%になりますと、街路樹の青葉を取って道路に落しておきますと、夕方には緑色の粕になって居りまして、中間に変化する酸化の余裕もない乾燥の厳しい土地柄であります。カリフォルニアの農耕地の広さは、日本全土位であります。中央に走る道路を中心として、盆地の肥沃な平野が山裾にかけて、全米随一の農耕地帯として展開されております。

自然条件から風土の話に移りますが、私は住居を下宿屋に決めまして、土俗的環境を身を以って体験しようと思いました。西部の人々の服装ですが、常には誠に軽快なもので、大学では教授でもアロハを着用し、そのまま講義に出ます。学生もそれにふさわしい軽い服装です。映画に観るような立派なものでは決してありません。服の製品なぞ日本製品が多く、うっかりすると、メイドイン・ジャパンをお土産にしかねない処です。

家の構造なども極めて合理的に、質素なものです。人種が多種多様の故か、出身国の特徴を表現した建物には興味がありました。

日本人の一、二世の方々大学の教官をして居りまして、大変お世話になりました。一世の方は日本の話を懐しそうに聞いて呉れますが、二世の方々になりますと、まだ一度も日本を観た事が無いと云う人が多く、現在の日本の様子なぞ理解して貰えぬのは残念に思いました。

サンフランシスコやサクラメントには日本人も多く、日本料理店もあります。懐しさから食事に参りまして、老日本人のお国訛りまる出しの言葉には心から更に懐しさが湧いて来るのでした。アメリカ、特に西部カリフォルニアに住む人々には、あの逞しい開拓精神が今も脈々として、生き続けて居る様子を感じられました。時間がありましたら、スライドでもご覧に入れて、お話を進めたい処ですが、ケーリーさんの時間が参りましたので、これで失礼致します。

## ＝ 庄内に来て ＝

京都大学人文学研究所 ウィリアム・ケーリー

私はアメリカの大学院生で、社会人類学会の博士課程に席を置いています。博士論文の研究に日本にきました。課題を「近代稲作構造と農村社会との関係」を研究の目標と致しまして、それを庄内と云う土地に焦点を絞り、次の様に3つの問題点をテーマとして居ります。

- (1) 庄内地方は部落ぐるみの協同施設で、優秀な地区と言われて居ります。それ故稲作の生産組織を一応の研究の対照とした。
- (2) 農業用水のために赤川を支配して、水を利用する。灌漑排水の系統的構造の研究に意を注ぐ。
- (3) 基盤整備事業は稲作のやり方と、農家経営を大きく変化させると言われて居ります。圃場整備とか、土地改良には非常に興味を持っている。

以上の研究には、山形大学農学部の方や鶴岡、藤島町の方々から、大変お世話になり感謝して居ります。

話が変わりますが、私の父もアメリカでロータリークラブの会員です。ロータリー財団の国際交流事業などよく知っています。鶴岡ロータリークラブの皆さんが、国際交換プログラムに参加して居られることは、とても有難い事と思います。

尚、私が社会人類学会の博士課程の研究に、何故日本を選んだのかと、よく質問されます。その理由として特に取り上げると、日本の精神的農業は、世界に大切なものを模範として示していると云うことです。日本人自身は自分の農業のあり方を、困ったものだと思っておる様子ですが、海外から見ますと、日本農業の成功の発展は学ぶべきものがあります。

又日本人の英語の勉強と西欧に対する知識は誠に敬服するものがあります。が一般のアメリカ人は日本社会に対して、まだ余り深い理解に達して居りません。理解しようと努力して居る事実はありますが、私は6年前、7週間程日本に滞在したことがありました。その時はせいぜい「お早ようございます」程度の日本語しか出来ませんでした。しかし当時の日本の方々は誠に親切でした。身に沁みて以来忘れることは出来ません。この度は妻と一緒に参りまして、日本の良さが益々判ります。本当に日本は住みよい国です。これからもどうぞよろしくお願い致します。

### 出席報告

本日の出席	会員数	75名	欠席者	阿部(襄)君、五十嵐(三)君、五十嵐(伊)君、海東君、上林君、風間君、小花君、森田君、斎藤(栄)君、斎藤(信)君、佐藤(伊)君、佐藤(衛)君、佐藤(友)君、鷺田(幸)君、笹原君、新穂君、石倉君、板垣(広)君、鈴木(重)君、高橋(良)君、手塚君、横山君、鷺田(克)君、山口君、清水君、藪田君
	出席数	49名		
	出席率	65.33%		
前回の出席	前回出席率	83.78%	マークアップ	板垣(俊)君、三井(徹)君、佐藤(衛)君、菅原(辰)君、一鶴岡西RC 斎藤(栄)君一外国RC
	修正出席数	67名		
	確定出席率	90.54%		
ビジター	半田茂弥君、佐藤拓君一鶴岡西RC 佐藤昭吉君、阿部隆君、今野徳市君、斎藤五郎八一温海RC			